

皆さんの



interview

～高野辰之博士・中山晋平先生への想い～



ずっと歌い継がれてほしい

たかみさわきよし 高見澤清さん (安源寺)

辰之博士の「故郷」は全国の誰もが歌え、とても親しみやすい歌だと思います。私は「フォトサークル写心」というサークルで写真を撮っていますが、「ふるさとの風景」を撮るにも、この地域の景色が一番ふさわしいですし、この素晴らしい景色があったから素晴らしい歌が生まれたのだと思います。誰もが親しめるこの歌が、これからもずっと歌い継がれてほしいです。



小学生のころから歌っています

なかやまかずこ 中山和子さん (新野)

「故郷」、「朧月夜」は尋常小学唱歌だったので、今でも歌っています。また、晋平さんの「カチューシャの唄」は両親が歌っていたのでよく覚えています。両親からは、晋平さんは几帳面で、「らしく」という言葉が好きな人だったと聞いています。「自分らしく見栄を張ることはない」という意味だと思いますが、そんな晋平さんの歌をこれからも歌っていきたいです。



体の中に染み込んでいる歌

(左から)おたわまさへ 横溝トミさん
さきふ 佐々木富貴さん、うえくさよしこ 植草良子さん (千葉県)

2年前に高野辰之記念館に行き、今年は念願の中山晋平記念館に来ることができました。みんなでコーラスをしていますがお二人の歌を歌えば自分たちが育った情景が浮かんできて、まるで自分の体の中に歌が染み込んでいるようです。現在、童謡・唱歌を歌う機会が減っていますが、この素晴らしい歌をぜひ歌い継いでいってみたいです。



中山晋平記念館

☎ 中野市大字新野 76

☎ (22) 7050

開 3月～11月 / 午前9時～午後5時
12月～2月 / 午前9時30分～午後4時

休 4月～11月 / 休館日なし
12月～3月 / 祝日以外の月曜日
および年末年始
(12月29日～1月3日)

料 一般 300円 (20人以上団体は1人230円)
高校生 150円 (20人以上団体は1人100円)
中学生以下 無料



高野辰之記念館

☎ 中野市大字永江 1809

☎ (38) 3070

開 3月～11月 / 午前9時～午後5時
12月～2月 / 午前9時30分～午後4時

休 4月～11月 / 休館日なし
12月～3月 / 祝日以外の月曜日
および年末年始
(12月29日～1月3日)

料 一般 300円 (20人以上団体は1人230円)
高校生 150円 (20人以上団体は1人100円)
中学生以下 無料

「シャボン玉」や唱歌「故郷」など童謡・唱歌のふるさと中野市。この中野市をイメージし、音楽親善アンバサダーの「麻衣」さんが作詞した「空みあげて」。

自然の尊さ、生きること、愛することの大切さを力強く表現しているこの歌を耳にすると、心の中に生まれ育った「ふるさと中野市」の情景が、ふと浮かび上がります。

中野市イメージソング

空みあげて

いま目を閉じれば 連なる山々
朧にかすむ月に 菜の花咲きほこる

あざやかな紅葉 新たにはなやぎ
ふかいふかい雪を踏む 足音きこえる

ひとり旅だっけいま
信じるくに(州)を想う
いつも一緒だった 大きなりんごの木

いまを生きるそれは愛 愛する事 強くなれる
いつも胸にゆめ抱き 空みあげて歩もう

泣きたくなったら ここにおいでよ
ことりたちがささやく 帰っておいでよ

いつか年老いてゆめを わすれかけてしまっても
咲きたてのあの バラのように やさしくありたい

いまを生きるそれは愛 愛する事 希望のしるし
やさしい風がぼくたちを いつでも待ってるから

いまを生きるそれは愛 愛する事 強くなれる
いつも胸にゆめ抱き 空みあげて歩もう

偉大なふるさと
世界がひとつになれ



動画を視聴できます

作詞 麻衣
作曲 松本俊明
編曲 宮野幸子
唄 麻衣

※QRコードが読み込めない場合は、「YouTube 中野市イメージソング 空みあげて」と検索してください。

100年先まで愛され 歌い継がれる曲に

中野市音楽親善アンバサダー
麻衣さん



日本全国の人々に100年以上も愛され続けている曲「ふるさと」。その曲が生まれた地のテーマソングを書く、光栄ながらも、その重みも受け止め、どんなことを歌詞に込めるべきなのかを非常に悩みました。

ふるさは中野市の作詞家高野辰之が作った曲ですが、日本全国の人が口ずさめる、なぜだろう？とかがえていくと、この曲は、美しい日本の自然、愛する人たち、そして毎日悩みながら生き、ふとした時に思い出す心の中のふるさとを歌っていて、歌詞のひとつひとつに、自らの感情を重ねられるのだと

いうシンプルなことに改めて気づきました。ならば、中野市のテーマソングも聴いてくれる方々、すべての人に届くような歌詞にしたいと強く思いました。

私が歌をつくる、歌う上でいつも常にかんがえていることは、どうしたら、自分が自分に勝てるかということです。勉強する、仕事をする、人と一緒に生活をする、すべては自分との戦いで自分が輝いていなければ、その力は発揮できない。でも、ただ、自分が輝きたい魅力的になりたい！という願望だけでは、人は強くなれない、でも、誰かのためにがんばろうと思ったときに出る人間のパワーほどエネルギッシュなものはないと思うのです。

生きて行くということは、まわりの人を愛することそのもの。私はそう思うのです。愛することができれば、優しさをもった強い人になれるのではないか、その思いでこの歌を作り、そして、これから先100年先までもこの曲が歌い継がれることを願っています。